

アカショウビンの食餌物

千羽晋示*

Stomach analysis of Mandalin Coromanda

Shinji Chiba

アカショウビン *Halcyon coromanda major* (Temminck & Schlegel) はブッポウソウ目 CORACIIFORMES, カワセミ科 ALCEDINIDAE に属する鳥で、カワセミ *Alcedo atthis bengalensis* Gmelin ヤマセミ *Ceryle lugubris lugubris* (Temminck) とおなじ科の種類である。

形態は名前の示すように全身が赤褐色で、嘴は太く大きく、脚も嘴も赤色で、全体の形としては頭部が身体の部分に比較して大きいように見える。

この鳥は例年5月頃に渡来し、9月頃まで滞留する夏鳥で、その生息地域は普通森林の中を流れる溪流の周辺に多く集中している。

しかし、渡りの時期には平野部にまで漂行し、捕えられることもしばしばある。東京都でも、高尾山では夏季には生息が確認されており、港区芝公園附近でも記録されている。新潟県では各地とも、ごく普通に見られる夏鳥で、中でも南魚沼郡湯沢町苗場山麓、東頸城郡松之山、南魚沼郡浅草岳山麓などの森林中には、生息数も多く、随所で本種の囀鳴するのをきくことができる。

1. 食性の概略

アカショウビンの食性については、清棲(1966)が食餌物名を列記しており、他にも2、3の報告が知られている。これらによると多くはカエルなどの両生類、サワガニなどの甲かく類、バッタなどの昆虫類を主たる食餌物としており、魚類なども食餌物として捕食している。

今回の報告は、これまでの故石沢先生収集の資料の一連のもので、これらの保存法、収集期などは、これまで報告したものとまったく同じ処理などによるものである。

2. 結果と考察

収集された個体は10個体で、5月2個体、6月1個体、7月2個体、9月5個体の内訳になっている。8月の資料に欠けており、そのうえ収集数が少なく、まとまったものとはいい難いが、食餌物の分析結果は表1に示した。収集場所は長野県下で6個体、山形県下で2個体、青森県下で1個体、不明が1個体となっている。この中で青森県下の1個体は、春の移動の折りに尻矢岬灯台に衝突死したもので、渡り時の食性の解明の点からも、貴重な資料といえる。

この10個体からはこれまでの報告のように甲かく類、魚類のような種類の検出はなかったが、両生類と昆虫類の検出は表に示したごとく見られた。

* 国立科学博物館付属自然教育園

National Park for nature Study, national Science Museum

Table 1. Stomach analysis of Mandalin Coromanda (10 individuals)

Food items	Month										Tems.	
	(v)		(vi)		(vii)		(ix)					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1. Hylidae アマガエル属					1	10						2
2. Scarabidae コガネムシ科 シロスジコガネ		1				4 (3)						2
3. Locustidae バ ッ タ 科								1	3			3
4. Curculionidae ゾウムシ科			1			3						2
5. Lucanidae クワガタムシ科 Lucanus maculifemoratus ミヤマクワガタ				1 (1)					1 (1)			2
6. Carabidae オサムシ科 Damaster blaptoides マイマイカブリ	2								1 (1)			2
7. Elateridae(larva) コメヅキムシ科									1			1
8. Chrysomelidae Chrysomela aenea ルリハムシ	1 (1)											1
9. Hydrophilidae ガムシ科						1						1
10. Formicidae アリ科									1			1
11. Unidentified insects 不明昆虫						1				1		3

両生類ではアマガエル属 *Hylidae* の1種と昆虫類ではコガネムシ科 *Scarabidae* など9科が記録されている。

各月の各個体とも、昆虫類は必ず検出されており、両生類は7月、9月の各1個体にしかすぎない。

10個体の中で、もっとも多量の食餌物を食していたのは長野県島々で収集された9月の個体で、アマガエル *Hyla arborea japonica* を10匹、コガネムシ科のシロスジコガネ *Granida albolineata* など4匹、ゾウムシ科 *Curculionidae* 3匹、ガムシ科 *Hydrophilidae* 1匹、種名不詳昆虫1匹が検出された。この個体は他の9個体に比較して、食餌量も多く、内容も変化にとんでおり、いちぢるしい相違が見られる。

アカショウビンの胃内容物から検出された食餌物の性状を見ると、バッタ科 *Locustidae* のイナゴ類 *Oxya* は未本科植物を食害するものであり、ゾウムシ科の多くは、樹幹、果実、葉などを食害し、ハムシ科 *Chrysomelidae* のルリハムシ *Chrysomela aenea* は、ハンノキ、シデなどの葉を食害するのである。また、コメツキムシ科 *Elateridae* の幼虫は、早春には果樹、灌木の芽を食害するものが多く、こうしてみると総合的に害性の強い虫が多いことがわかる。

しかし、オサムシ科 *Carabidae* のマイマイカブリは、蝶、蛾類の幼虫を食べる益性を示すもので、オサムシ科の食性が肉食性であることを考えると、益性のつよい虫ともいえるが中には果物、種子、心葉、花粉などを食べ植物を食害するものもある。ガムシ類は農作物に害を与えるものが多い。

青森県尻矢岬灯台で衝死した個体は、5月下旬のものであるが、わずかにコガネムシの1種を食していただけで、本種が海上を飛翔する際の状況を推測する際の例として、重要な意味をもつものと考ええる。

これまで、10個体の検出例をのべたが、少数例のため、季節的な変動は不明である。しかし、本種が森林性の鳥で、食餌物も森林害虫が多いことから考えて、現在開発されつつある自然の環境変化が、アカショウビンの保護に、悪い影響を与えなければと念ずるものである。

終りに際し、資料の恵とご教示を賜った故石沢慈鳥先生の霊に謝意を表します。

Summary

Stomach analysis of Mandarin Coromanda

The above-mentioned resource materials were gathered by the late Mr. Jicho Ishizawa. His subjects were 10 individuals. In May, 2 individuals, in June, 1 individual, in July, 2 individuals, in September, 5 individuals were registered.

However, because of the small number of instances, the difference of their seasonal feeds were unable for his investigation.

By the way, Ruddy Kingfisher habits in forests, and its feed is primarily noxious insects of forest. Naturally, it should be kept in our mind that human colonization of forests must inevitably work as factors to harm them.